# 平成30年度研究プロジェクト研究概要報告

| 研究種別  | ■自主研究 11                  | 公益目的事業 17 |
|-------|---------------------------|-----------|
| 主査名   | 小早川悟 日本大学理工学部教授           |           |
| 研究テーマ | 路上の時間制限駐車区画の運用方法に関する研究*** |           |

#### 研究の目的:

わが国では都市部を中心に、パーキング・メーター(PM)やパーキング・チケット(PT)などの時間制限駐車区間規制により、合法的に路上への駐車が認められる区間が存在する。この時間制限駐車区間規制は、路外駐車施設の十分な整備が進むまでの暫定運用という原則があるが、本規制が制定された当初と比較すると、近年は乗用車の路外駐車施設の整備が着実に進んできている。このような状況の中で、時間制限駐車区間は設置の仕方や運用方法を現状とあったものに変更していく必要がある。そこで本研究では、路上に設置されている駐車施設の運用形態の整理を行い、その後に運用条件の異なる時間制限駐車区間でのドライバーの駐車行動に着目することにより、時間制限駐車区間の運用方法と今後の道路空間の効率的な利用の促進に向けた検討を行うことを目的とする。

## 研究の経過(4月~3月):

本研究プロジェクトでは、まず、路上駐車施設の整備形態と運用方法の整理を行った。さらに、現存する路上駐車施設の利用実態を把握するために PM と無料のローディングベイおよびその周辺の路外駐車場の駐車実態調査を実施した。なお、この無料のローディングベイは 2018 年に警視庁が新しく新橋に設置した路上駐車施設であり、無料で利用できるかわりに駐車時間の上限を 20 分とし、取締りではなく自主的な協力により運用が行われているものである。本プロジェクトでは、これらの路上駐車施設を対象に駐車実態調査を実施し、その調査結果をもとに路上駐車施設の運用方法の検討を行った。

## 研究の成果(自己評価含む):

分析結果から、従来型 PM の時間制限駐車区間では短時間駐車車両が多数を占め、PM が適切に利用されていない実態が明らかとなった。また、短時間型 PM では駐車枠に手数料を支払わない車両が駐車する割合が高まる可能性があることが示唆された一方で、従来課題とされてきた荷さばき貨物車の路上駐車に対して、路上にベイを作成して荷さばき貨物車に限り無料で 20 分まで駐車を認める運用の方が、ルール内利用が増える結果となった。これらの研究成果は、2019 年 3 月 13 日に実施された日交研の物流シンポジウムにおいても講演会およびパネルディスカッション用の資料として活用された。

### 今後の課題:

今回の研究結果からは、実態に即した運用を行うことで路上駐車施設は適正に利用される可能性があることが判明した。今後は、路上駐車施設の運用形態と合わせて、利用者の受益者負担をどのように考えていくのかが検討課題になる。